羽島市地域農業再生協議会（岐阜県羽島市）

組織の概要

■羽島市、JAぎふ、各種農業団体が構成員となり、H23年に設立。構成農業者2599名（うち国産小麦産地生産性向上事業の受益農業従事者数は41名）。
■協議会構成員のうち41名が小麦生産農家であり、小麦は地域の重点的な転作作物に位置付けられている。
■協議会では「二毛作も対象とした、大規模（10ha以上）に集積した小麦の作付け」を産地交付金の支援対象に位置付けることで、小麦作の規模拡大を推進している。

生産概要

■【作付面積】水稲：25.2ha、小麦：8.1ha、飼料作物：7.4ha（R3：水田44ha）
■今後は経営耕地のうち麦作に適した水田（全体の2/3）において麦を生産予定。
従来の麦単作から、一部をブロックローテーション（小麦、飼料用米等）に転換予定。
■営農組合を前身とする農事組合法人が中心となり、地域の大半の小麦生産を担っている。

取組のポイント

＜需要に応じた生産を徹底＞

■地元製粉事業者に提供するタマイズミを生産。実需者からの増産要望を受けて、単収向上に資する病害抵抗性品種について同社と連携して品種転換を検討。

＜土壌診断＞

＜団地化したブロックローテションの導入と土壌診断に基づく土づくり＞

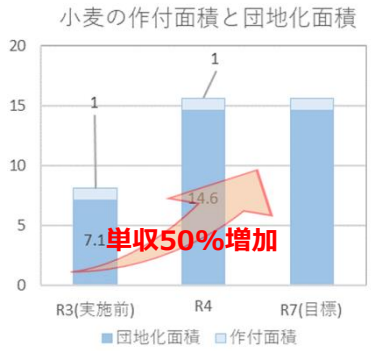
■麦作農地の大半で団地化を実施。飼料作物の需要減等を契機に麦作の規模を拡大。（H29：100ha → R2：180ha）
■麦作の規模拡大に当たっては、80%以上の団地化率を目標に話し合いによりほ場を選定。
■事業実施年度の麦作ほ場の大半（2/3程度）で筆ごとの土壌診断を実施し、診断結果を踏まえて土壌改良剤（苦土石灰）を施用。その結果単収も改善。
■R1の麦作導入時から麦の連作となっていたところ、R4の規模拡大を契機にブロックローテーションを導入。

＜土壌改良剤施用＞

取組成果

＜団地化を前提とした小麦生産の拡大＞

■飼料作物からの転換等により小麦の作付面積が92%増加
（作付面積：8.1ha（R3）→15.6ha（R4）　R7目標：15.6ha）
■小麦作付けの拡大に当たって、団地化を前提としていることで団地化面積・団地化率が向上（団地化面積105%、団地化率6.2ポイント増加）
（団地化面積：7.1ha（R3）→14.6ha（R4）　R7目標：14.6ha）
（団地化率：87.1%（R3）→93.3%（R4）　R7目標93.3%）

＜単収向上による安定した小麦生産＞

■事業実施前と比べ、単収は50%向上
（単収：152.8kg/10a（R3）→229.8kg/10a（R5））